京都大学　教育課程論Ⅰ
2014 年 10 月 29 日　西岡加名恵

資料１．中学校社会科におけるパフォーマンス課題の作品例と長期的ルーブリック

Cf. 三藤あさみ・西岡加名恵『パフォーマンス評価にどう取り組むか』日本標準、2010 年）

①②パフォーマンス課題「明治時代の新聞の社説」の作品例

① 社会科通信 ワークシート NO34

時は 1900 年、みなさんは明治時代の新聞社の社員たちであり、社会が大きく変化してきた明治維新を記念する社説を書きます。社説は、当時を生きる人々（政治家、産業界の人々、文化人、一般の人々）に向けた新聞社からのメッセージです。

話し合いの内容や今までの学習をふり返り、今後の改革のあり方について重要だと考えることを提案してください。

思考用紙：この範囲と時間内におさまるようにまとめましょう

政治・教育・産業…優先させるべきものは？

近代的な産業、内閣制度、教育…外国の様々なものを沢山取り入れた今、日本はそれをどこまで活かし、そしてよりよい国をつくることができるか、その選択を迫られている。具体的に今の日本の現状を視野に入れつつ日本の歩むべき道について自分なりに考えてみることにする

選択肢1 武力

「武力で日本を行使する」という考えはあまり望ましくない。なぜなら、国民の命を危険にさらすことになり、日本が強い軍隊を持ち武力で物事を解決させていく国となれば、日本だけでなく、世界の未来をも壊してしまうことになり兼ねないと思うからである。武力というものが、どれだけ悲惨な事態を引き起こすものなのか、今まで日本が歩んできた道を振り返れば分かることではないか。果たして"武力"は良い日本をつくり出してくれるのか、そこが疑問である。

選択肢2 自由

「言論で自由な国づくりをする」という考え。これはその通りだと思う。教育を進める上で第一に考えなければならないことであり、平等に教育を受けさせる為に「国民には自由というものがある」という考えを国民達に定着させていくべきだと改めて考えることができる。

まとめ

自分は教育を優先させるべきだと思う。"自由"をうまく教育に取り入れて、皆が日本より進んでいる外国の様々な学問を多く学んでいけるように政府は取り組むべきではないか。そうしたら"武力"で日本を強くするという考えもなくなると思う。日本の国民皆が様々な知識を持っていれば、他の国と戦わなくても議論で解決することは沢山あるのではないか。

② 組　番氏名

時は 1900 年、みなさんは明治時代の新聞社の社員たちであり、社会が大きく変化してきた明治維新を記念する社説を書きます。社説は、当時を生きる人々（政治家、産業界の人々、文化人、一般の人々）に向けた新聞社からのメッセージです。

話し合いの内容や今までの学習をふり返り、今後の改革のあり方について重要だと考えることを提案してください。

思考用紙：この範囲と時間内におさまるようにまとめましょう

今の日本の発展には重工業が必要だ

今、日本はアメリカやイギリスなどの諸外国に二世紀ほども遅れている。この遅れを取り戻すために今、日本政府は外国の文化や技術、法律まであらゆるものを急激に吸収して追いつこうと努力しているが果たして日本はこのままで発展を遂げることができるのだろうか。

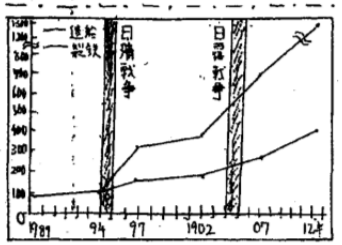
正直なところ、たぶん無理ではないかと思う。今の日本が確実に外国に追いつくには工業と発展させるべきと考える。

特に期待できるのは重工業だと思う。なぜなら日本の重工業は数年前の日清戦争で清から賠償金をもらいなり発展し剣を取るまでになった八幡製鉄所のおかげで製鉄業はここ数年で発展を続けている。（下図参照）

また石川島造船所では外国船の修理を請けおうまでになっており日本の造船技術の発展をうかがい知れる。

このまま外国の文化や法律を真似し続けても外国から見れば日本にただ真似をしているだけと思われるだけでバカにされたら条約の残っている部分の改正もできなくなる。そのためにも、ここは重工業の発展を外国に見せ日本の力をはっきり示すべきである。

更に言えば、造船業、製鉄業の発展は国力、軍事力、海運の発達にもつながり、ますます国を豊かにすることができ、いままでできなかったこともできるようになるかもしれない。



京都大学　教育課程論Ⅰ
2014 年 10 月 29 日　西岡加名恵

③パフォーマンス課題「国際シンポジウムで提案しよう！」の作品例

（三藤あさみ・西岡加名恵『パフォーマンス評価にどう取り組むか』日本標準、2010 年、p.26）

課題：「あなたは、平和を守るための調査や研究をしている政治学者です。ところが……第一次世界大戦、第二次世界大戦と規模が大きく犠牲者も多く出た戦争が二度にわたり起きたため、世界に向けて「なぜ戦争が起きるのか？どうすれば戦争が防げるのか？」について提言するレポートを作成することになりました。［模擬『国際シンポジウム』で意見交換したうえで、提言レポートを B4 用紙一枚にまとめてください。］」

全ては平和の為に―
条約・同盟を有効的に使う!!!

58期生　社会科通信　ワークシート　N057

組　番氏名

・戦争の起こる原因・

第二次世界大戦を例にとってみると、この戦争の起こった一番のきっかけは"ベルサイユ条約"であると言える。『ベルサイユ条約』では、アメリカ・イギリス・フランス・日本（協商国）の利益を優先させ、戦いに敗れたドイツ（同盟国）には国家収入の17倍の賠償金等が課せられた。（→資料1）その結果世界恐慌によって経済が混乱し、ドイツは財政が苦しくなり、そこへヒトラーが出てきてナチスの一党独裁を展開し、"ベルサイユ条約"の破棄やドイツ国民に民族的な優越感を持たせる為にユダヤ人迫害を行った。（→資料2）●このように、戦争が終わっても敗戦国だとして『条約』というもので不当な扱いをされ、その中で苦しんでいる人々が"どんな手を使ってでも自国を平和にしたい"という気持ちから、また戦争へとつなげて、『戦争への連鎖反応』をつくり上げてしまう。（ただ直接戦争につなげていったヒトラーは、経済的に苦しいドイツを助ける為に出てきて様々な政策をし、最終的には国民の指示を得てトップへと立っているのだから『経済的な要因』であるととらえることもできる。）この連鎖反応が起こるきっかけはまさしく『条約』があるからで、時によって『条約』が対等に結ばれたり、"ベルサイユ条約"のような一方が得をしてもう一方が損をするという条件であったりする。ただ、ナチスによるユダヤ人虐殺の背景には、『民族・宗教』も絡んでいると思う。ユダヤ人は、自分達は神から選ばれた民族だという意識を持っていて、おそらくナチスにとってこれをほっておくのは、国民の非難を浴びる＝政権が倒れるということだったので、このような政策が行われたのではないかと考える。●また、ドイツ・イギリス人の間で結ばれた"宥和政策"と、ドイツ・ソ連の間の"独ソ不可侵条約"でも同じことが言える。"宥和政策"により、軍備の拡張を急速に行うドイツに対し、自国を傷付けたくはないという思いから、行動を抑止することをすぐできなかったイギリス人。ドイツのまさかの"独ソ不可侵条約"破ソ（1939年のポーランド侵攻）。●これらの出来事からも分かるように、それぞれが自国に有利になるように『条約』を結んでも、何かしら自国に不都合になるものは必ず出てきてしまう。それを人々がしっかり把握できていないことで、ただ自分勝手に事を進めているだけの流れに社会全体がなっていくのである。●ただドイツが"独ソ不可侵条約"を破ソ第二次世界大戦を始めたのは、『人間の欲』が一番関係していることだと思う。いくら『条約・同盟』でそれがはっきりしたとしても、『欲』というのは次々と出てくるものである為、『欲』を第一に考えて行動していれば、それだけにとらわれてしまい、冷静に物事を考え処理していくということができなくなり、その結果、このような大惨事を招くことになり兼ねない。

資料1　ベルサイユ条約　1919年

◎ベルサイユ条約の調印

1. ドイツは賠償としてザール炭鉱をフランスにゆずる。
2. ドイツはポーランド、チェコ、デンマーク、フランス、ベルギー、リトアニアに領土をゆずる。（領土の6分の1）
3. ドイツは海外領土・植民地を全部失う。
4. ドイツは陸軍兵力10万人、海軍力軍艦総トン数10万トン、その他の制限。
5. 賠償金132億金貨マルクを支払う（1921年）。

▲主要国の工業生産数

ドイツは資本主義国でありながら、世界恐慌によって工業生産数が一気に落ち込み、それがドイツの財政を増々苦しめることとなったのではないか。

← 全ヤ協商国に有利になるようなもので、ドイツは世界的にも低く見られてしまっていることが分かる。

▲ドイツ・イタリアの侵略

↑ドイツは様々な口実や条約破ソをして植民地を広げていったが、この時のドイツは財政の苦しさ、ソ、こうすること以外に打つ手は一つもなかったのではないか。

・平和になる為には…・

まず、『条約・同盟』を結ぶ時は、お互いに対等な立場で、決して利益を求めて行わないことだ。何かあった時に『条約・同盟』をきっかけにして戦争を起こすという『条約・同盟』の扱い方自体が間違っているのだということを、それぞれの国の指導者はもちろん、一人ひとりの国民にも知ってもらわなければならないと思う。人間の『欲』は誰にも止められないものであるし、そういったものを政治に影響させないように気を付けていても我慢の限界というのはある。しかし、その『欲』によって人々が支配されてしまうことはなんとか避けねばならず、今、私達に要求されているものは、冷静に平和について考えることではないだろうか。今まで起こしてきた戦争をこうして振り返ることで、様々な問題が浮上し、またその中で共通している問題点（課題）というのもあるはずだ。『条約・同盟』はあくまで今の平和な状態をこれからも保ち続けよう、またはお互いに協力し合いながらより良い生活を送っていこうなどの独自のルールを一緒に守っていこうというもので、決して損得という低レベルの問題で結ばれるものではないと思う。「世の中を平和にする為にどうすればよいか」という関心を一人ひとりが持ち『条約・同盟』の本当のあり方について真剣に考えていけば、「平和」は実現するであろう。昔の誤ちを二度と繰り返さない為にも、また、国際連盟の設立に向けて全力を尽くしたウィルソン大統領やアメリカのルーズベルト大統領とイギリスのチャーチル大統領との間の"大西洋憲章"（1941.8）などの行動からも分かるように、平和に向けての運動を積極的に繰り広げる、これが一番大切なことだと思う。

京都大学　教育課程論Ⅰ
2014 年 10 月 29 日　西岡加名恵

④長期的な学力評価計画：中学校社会科（イメージ）

※「社会的な思考・判断・表現」の観点に対応して、長期的ルーブリックを用いている。

（西岡加名恵「学力評価計画に対応するポートフォリオの活用」『指導と評価』2010 年 10 月号、p.10）

観点	評価方法	レベル１	レベル２	レベル３	レベル４	レベル５
社会的な事象への関心・意欲・態度	パフォーマンス課題	[略]				
社会的な思考・判断・表現	パフォーマンス課題（社会的な事象に関する論説文）	社会的な事象について、政治・経済・文化・人口・地形などの構成要素から事実を述べることはできる。しかし、事実を断片的に羅列しているだけであり、主張と根拠を結びつけることに困難が見られる。基本的な資料の読み取りや作成に困難をきたしている。	社会的な事象について、政治・経済・文化・人口・地形などの構成要素から何らかの根拠に基づき主張を行うことができる。しかし、捉えられている因果関係は、表層的で単純なものにとどまる。基本的な資料を読み取ったり作成したりすることはできる。	社会的な事象について、政治・経済・文化・人口・地形などの構成要素から２つ以上の視点をもつことができる。これらの視点を関連づけつつ分析し、具体的な根拠をあげて明確な主張を述べることができる。複数の資料を関連づけながら論述を行うことができる。	社会的な事象について、政治・経済・文化・人口・地形などの構成要素から２つ以上の視点をもつことができる。これらの視点を総合的に関連付けて分析し、具体的で詳細な根拠をあげて説得力のある主張を組み立てることができる。主張に適した多様な資料を複数関連づけて論述している。	社会的な事象について、政治・経済・文・化・人口・地形などの構成要素から３つ以上の視点をもつことができる。これらの視点を総合的に関連付けて多角的に分析し、最適で詳細かつ具体的な根拠をあげて、非常に説得力のある主張を組み立てることができる。最適な資料を複数選択し、多角的に関連づけつつ論述している。
資料活用の技能	実技テスト 筆記テスト	３年間で身につけるべき技能を　0～20%習得している。	３年間で身につけるべき技能を 20～40%習得している。	３年間で身につけるべき技能を 40～60%習得している。	３年間で身につけるべき技能を 60～80%習得している。	３年間で身につけるべき技能を 80～100%習得している。
社会的な事象についての知識・理解	筆記テスト	３年間で身につけるべき知識･概念を 0～20%習得している。	３年間で身につけるべき知識・概念を　20～40%習得している。	３年間で身につけるべき知識・概念を　40～60%習得している。	３年間で身につけるべき知識・概念を　60～80%習得している。	３年間で身につけるべき知識・概念を 80～100%習得している。

中学校１年生

中学校２年生

中学校３年生

対応するチェックリストを用意する。